

外苑事務所

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-1
 日本青年館・日本スポーツ振興センタービル
 〈交通〉
 東京メトロ銀座線 外苑前駅下車(2b出口) 徒歩5分
 都営大江戸線 国立競技場駅下車(A2出口) 徒歩10分
 JR総武線各駅停車 千駄ヶ谷駅/信濃町駅下車 徒歩12分

秩父宮ラグビー場

〒107-0061 東京都港区北青山2-8-35
 〈交通〉
 東京メトロ銀座線 外苑前駅下車(2b出口) 徒歩5分

秩父宮記念ギャラリー

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町10-1国立競技場
 〈交通〉
 JR総武線各駅停車 千駄ヶ谷駅/信濃町駅下車 徒歩11分
 都営大江戸線 国立競技場駅下車(A2出口) 徒歩7分
 東京メトロ銀座線 外苑前駅下車(2b出口) 徒歩11分

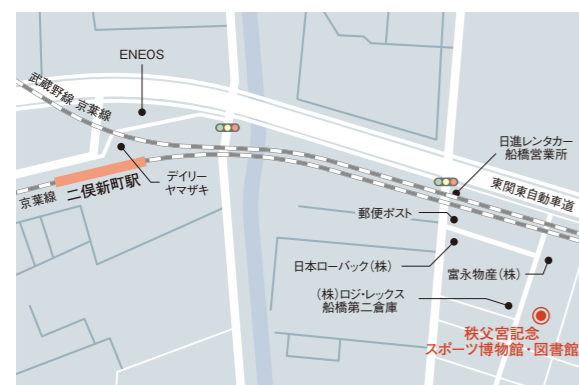
国立競技場

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町10-1
 〈交通〉
 JR総武線各駅停車 千駄ヶ谷駅/信濃町駅下車 徒歩5分
 都営大江戸線 国立競技場駅下車(A2出口) 徒歩1分
 東京メトロ銀座線 外苑前駅下車(2b出口) 徒歩9分



秩父宮記念スポーツ博物館・図書館(船橋倉庫)

〒273-0017 千葉県船橋市西浦2丁目5-3
 (株)ロジ・レックス船橋第一倉庫5階
 〈交通〉
 JR京葉線 二俣新町駅下車 徒歩13分



国立代々木競技場

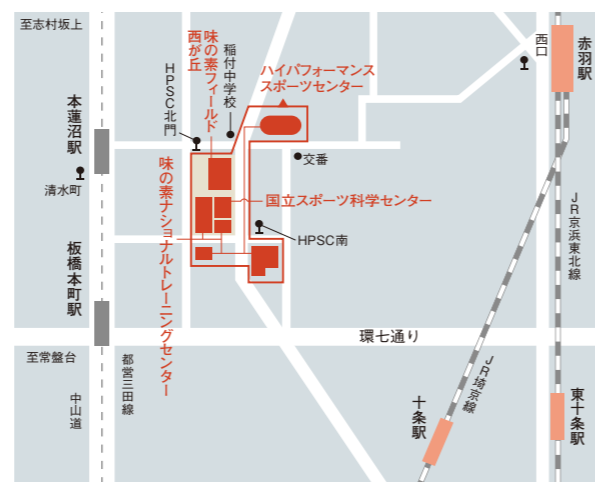
〒150-0041 東京都渋谷区神南2-1-1
 〈交通〉
 JR山手線 原宿駅下車(西口) 徒歩5分
 東京メトロ千代田線・副都心線 明治神宮前駅下車(1出口) 徒歩5分



ハイパフォーマンススポーツセンター (HPSC)



国立スポーツ科学センター (JISS)
味の素ナショナルトレーニングセンター (NTC)
味の素フィールド西が丘

〒115-0056 東京都北区西が丘3-15-1 他
 〈交通〉
 都営三田線 本蓮沼駅下車(A1出口) 徒歩10分/
 板橋本町駅下車(A1出口) 徒歩13分
 JR埼京線・京浜東北線・宇都宮線・高崎線・
 上野東京ライン・湘南新宿ライン 赤羽駅(西口)からバス
 バス「赤羽車庫」行き「HPSC南」下車
 「池袋駅東口」「日大病院」行き「HPSC北門」下車



独立行政法人日本スポーツ振興センター

JAPAN SPORT COUNCIL
 〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-1
 日本青年館・日本スポーツ振興センタービル
<https://www.jpnsport.go.jp>

Webサイトはこちらの
 二次元バーコードから ▶  英語版/パンフレットはこちらの
 二次元バーコードから ▶  **リサイクル適性**
 この印刷物は、印刷用の紙へ
 リサイクルできます。
 (2025年発行)



**JAPAN
SPORT
COUNCIL**

日本スポーツ振興センター
2025-2026

**JAPAN SPORT
COUNCIL**
 日本スポーツ振興センター

**JAPAN SPORT
COUNCIL**
 日本スポーツ振興センター

JSCは、スポーツの振興及び児童生徒等の健康の保持増進を図り、国民の心身の健全な発達に寄与することを目的に設立された独立行政法人です。

私たちは、スポーツが持つ価値が日本の豊かな未来への活力となるように、国内統括団体、国内競技団体、JAPAN SPORT NETWORK (JSN) 加入の地方公共団体等と連携しながら、以下のような取組を推進してまいります。併せて、法人全体でDXに取り組み、各種データや業務のデジタル化、AIの活用等の最先端テクノロジー活用にも積極的にチャレンジし、アスリート、国民へのサービス向上と職員のワーク・ライフ・バランス確保の両立に向けて努力してまいります。

- 国立競技場は、2025年4月に民間事業者による運営がスタートいたしました。国民の皆様等に親しんでいただけるスタジアムが実現するよう、民間事業者と協力して取り組みます。また、新秩父宮ラグビー場（仮称）のPFI事業（民間事業化）についても、観客やアスリートに対する優れたサービスの提供やスポーツGDPの増大等に寄与する視点、国民負担軽減などの観点から、国の方針等を踏まえながら、取り組みます。
- 国立代々木競技場、味の素ナショナルトレーニングセンター、味の素フィールド西が丘等の所管するスポーツ施設の適切な管理運営に努めるとともに、国立登山研修所の機能強化に取り組み、スポーツの振興に寄与します。
- 我が国の国際競技力向上の中核拠点であるハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）の機能を更に向上させるため、JOC、JPC、中央競技団体（NF）、地域のスポーツ医・科学センター及び大学・産業界等との連携を強化します。併せて、国際情報分析機能の強化に努めます。オリンピック・パラリンピック競技の一体の強化を前提としながら、オールジャパン体制でトップアスリートの競技力向上を支えます。
- そのほか、オリンピック・パラリンピック競技大会やアジア競技大会・アジアパラ競技大会に出場する日本代表選手に対して、最先端のスポーツ医・科学、情報サービス等を提供し、その活躍を支えるため、大会期間中、大会開催地に拠点を開設し、アスリートの支援に努めます。
- スポーツの振興の重要な財源を生み出すスポーツくじ（BIG、MEGABIG、toto、WINNER等）の販売促進に努めます。また、トップスポーツや地域スポーツ振興のためのより効果的な助成金の配分に努めます。
- アスリートが安心して競技に打ち込める環境を確保し、クリーンでフェアなスポーツを推進するため、関係機関と連携・協働しながら、スポーツ団体のガバナンス強化・コンプライアンスの徹底、ハラスメント等の相談対応、ドーピング防止活動の推進等、スポーツ・インテグリティの確保に向けた支援を行います。
- 学校の管理下における児童生徒等の災害（負傷、疾病、障害又は死亡）に対して災害共済給付（医療費、障害見舞金又は死亡見舞金の支給）の円滑な実施に努めるとともに、学校、家庭や地域におけるこどもの事故防止に関する幅広い情報提供等に積極的に取り組みます。

今後とも、スポーツが育てる豊かな未来の創出に貢献してまいります。引き続き、皆様の一層のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



日本スポーツ振興センター
JAPAN SPORT COUNCIL

理事長 芦立 訓

日本スポーツ振興センター（JSC）の基本理念

基本理念（JSCのミッション）

JSCは、スポーツの推進と人々の健全な発達、健康で豊かな生活を実現し、公正で活力ある地域・社会、平和と友好に満ちた世界に貢献します。

目次

基本理念／目的・業務／組織概要	1
理事長あいさつ／沿革	2
業務紹介	
・スポーツ施設	3
・国立登山研修所	4
・秩父宮記念スポーツ博物館・図書館	4
・新秩父宮ラグビー場・神宮外苑地区まちづくり	5-6
・国立競技場	7-8
・ハイパフォーマンススポーツセンター	9-11
・関係機関との連携・協働	12
・スポーツ振興事業部	13
・災害共済給付事業部	14
・スポーツ・インテグリティ・ユニット	15
財務	16
機構図・連絡先一覧	17
SNS／寄附について	18

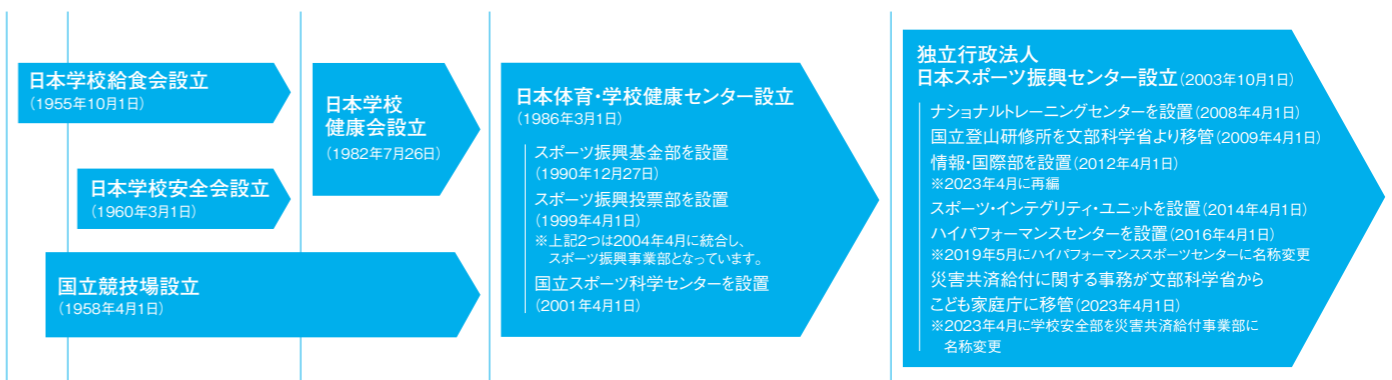
目的・業務

JSCは、独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）及び独立行政法人日本スポーツ振興センター法（平成14年法律第162号）に基づき設立され、その目的は、「スポーツの振興及び児童生徒等の健康の保持増進を図るため、その設置するスポーツ施設の適切かつ効率的な運営、スポーツの振興のために必要な援助、学校の管理下における児童生徒等の災害に関する必要な給付その他スポーツ及び児童生徒等の健康の保持増進に関する調査研究並びに資料の収集及び提供等を行い、もって国民の心身の健全な発達に寄与すること」とされています。

組織概要

組織名	独立行政法人日本スポーツ振興センター		
住所	〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-1		
職員数	873名（男性：446名、女性：427名）		
	【内訳】	常勤職員	429名（男性：269名、女性：160名）
		非常勤職員	444名（男性：177名、女性：267名）
役員	理事長	芦立 訓	理事
			岸 千秋
			監事
			児玉 進矢
			理事
			大西 啓介
			監事（非常勤）
			大橋 玲子
			理事
			久木 留毅
			理事
			矢野 功
			※2025年7月1日現在

主な沿革



スポーツ施設の運営及びスポーツの振興に関する業務

各種スポーツの国際大会やイベント等を開催するスポーツ施設の管理・運営を行っています。
また、登山に関する指導者等の養成及び情報提供業務を行う「国立登山研修所」、
そしてスポーツ文化の歴史と伝統を伝える「秩父宮記念スポーツ博物館・図書館」の管理運営業務を行っています。

スポーツ施設 「国立代々木競技場」・「秩父宮ラグビー場」・「味の素フィールド西が丘」の管理・運営を行っています。

国立代々木競技場(第一体育館・第二体育館)

1964年東京オリンピックのために建設されました。第一体育館は高張力による吊り屋根方式という構造の建築、第二体育館は円錐形の天井が見事なすり鉢状の体育館で、その造形の美しさは国際的に高い評価を得ています。2021年には、国の重要文化財に指定されました。現在、各種スポーツ及び文化的行事に使用されています。第一体育館は、2021年の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の会場としても利用されました。



■ 第一体育館
施設概要 延べ面積/28,705㎡ アリーナ面積/4,000㎡ 収容人員/8,774名(アリーナ席含まない)
※1964年東京オリンピック当時は、50m×8コースの競泳用プールと飛込用プールがありました。

■ 第二体育館
施設概要 延べ面積/5,644㎡ アリーナ面積/1,300㎡ 収容人員/2,811名(アリーナ席含まない)



国立代々木競技場(第一体育館・第二体育館)を上空から



第一体育館



第二体育館

国立代々木競技場Webサイト | <https://www.jpnsport.go.jp/yoyogi/>



秩父宮ラグビー場

ラグビー専用競技場として1947年に「東京ラグビー場」として完成。後に「秩父宮ラグビー場」と名を改め、1962年10月1日、国立競技場に移管されました。1964年の第18回オリンピック東京大会ではサッカー競技会場として利用され、現在はラグビーの国際試合、日本選手権、リーグワンや関東大学対抗戦などに利用されています。

施設概要 芝生面積/10,515.5㎡
(夏芝:ティフトン、冬芝:ペレニアルライグラスによる二毛作で通年緑化を実施)
敷地面積/35,459㎡ 建築面積/11,741㎡ 収容人員/24,871名



秩父宮ラグビー場

味の素フィールド西が丘

1972年、国立西が丘競技場は、サッカー専用競技場として建設されました。国際試合、天皇杯予選、全日本大学選手権、関東大学リーグ、全日本女子選手権、全国高校選手権などに幅広く利用されています。2012年に、ネーミングライツを導入し、施設名が「味の素フィールド西が丘」となっています。

施設概要 芝生面積/10,614㎡(サッカーコート105m×68m)
(夏芝:ティフトン、冬芝:ペレニアルライグラスで通年緑化を実施)
延べ面積/997.17㎡ 建築面積/1,186.65㎡ 収容人員/7,258名



味の素フィールド西が丘

国立登山研修所 登山指導者等養成のための専門施設

我が国の登山の健全な発展を図るため、1967年に文部省登山研修所として開所され(2009年に文部科学省から移管)、以来、登山指導者養成のための研修事業や、登山に関する情報提供を行い、登山事故の防止に貢献しています。

本館	標高/480m 敷地面積/26,114㎡ 建物面積/1,658㎡ 附属施設/トレーニング室、宿泊室、講義室、乾燥室、パッキング室
スポーツライミング用人工壁(屋内)	所在地/本館トレーニング室 ①高さ/6m~8m 幅/17m FRP製 ②高さ/6m 幅/3m 合板製
ボルダリングウォール(屋内)	所在地/本館トレーニング室 高さ/2.5m 幅/12m 合板製
ロッククライミング訓練施設(屋外)	所在地/研修所敷地内 高さ/17.5m 縦/11m 横/13m
夏山前進基地	標高/2,450m 敷地面積/725㎡
冬山前進基地	標高/1,310m 敷地面積/550㎡ ※現在利用を中止しています。



国立登山研修所本館

(1) 研修会・講習会・セミナーの開催

大学生、高等学校部活動指導者、消防、警察、自衛隊、山岳遭難救助組織、都道府県山岳連盟(協会)関係者・一般登山指導者等を対象とした、講義と実技を組み合わせた研修会・講習会や、一般登山者・登山初心者を対象としたオンサイト・オンラインのセミナー(座学講義)を開催しています。

(2) 登山に関する最新の知見や技術等についての情報提供

(3) 登山関係団体等の研修事業への施設提供、助言・協力



ロッククライミング訓練施設



登山リーダー夏山研修会

研修会のお申込等最新情報については、X及びInstagramをご参照ください。



国立登山研修所 X



国立登山研修所 Instagram

国立登山研修所Webサイト | <https://www.jpnsport.go.jp/tozanken/>



秩父宮記念スポーツ博物館・図書館 スポーツの歴史や伝統を文化面から支える業務

秩父宮記念スポーツ博物館・図書館は、日本で唯一の総合スポーツ博物館及び図書館です。昭和天皇の弟君であり、「スポーツの宮様」として親しまれた秩父宮雍仁(ちちぶのみや やすひと)親王(1902-1953)の我が国のスポーツ界に対する功績を記念し、スポーツの振興に資するため、1959年に開設されました。以後、スポーツに関わる歴史・文化的情報を幅広く提供する活動を行っています。

現在、秩父宮記念スポーツ博物館は「新秩父宮ラグビー場(仮称)」への移転・開館に向けた準備を進めています。展示活動については、2022年1月から国立競技場内に「秩父宮記念ギャラリー」を開室し、雍仁親王の御遺品を中心とした収蔵品展や企画展を実施しています。その他外部では、他団体と連携した企画展も開催しています。また近年は、スポーツ・デジタルアーカイブの構築を目指し、資料のデジタル化を進めるなどスポーツ資料のアーカイブ化・ネットワーク化に取り組んでいます。



秩父宮記念ギャラリー



東京オリンピック(1964年)プログラム



企画展:1964-2020ユニフォームでみる東京大会(市川市)

スポーツ博物館Webサイト | <https://www.jpnsport.go.jp/muse/>



秩父宮ラグビー場の移転整備

現在の秩父宮ラグビー場は施設の老朽化が著しく、ユニバーサルデザインの導入や多様化するニーズへの対応も求められていることから、東京都の地区計画や指針に基づく「神宮外苑地区第一種市街地再開発事業」の枠組みにおいて移転整備することとしました。

新秩父宮ラグビー場(仮称)整備・運営等事業

新しい秩父宮ラグビー場の整備は、「スポーツの力」で未来を育てるスタジアムをビジョンに掲げ、以下の4つのコンセプトの実現を図ることを目的として進めています。

- コンセプト
- 1 我が国のラグビーを象徴するスタジアム
 - 2 様々なシーンに対応できる誰もが心地よいスタジアム
 - 3 持続可能性に配慮した未来を紡ぐスタジアム
 - 4 スポーツの多様な価値を発信するスタジアム

本事業の主な特色

PFI方式(BT+コンセッション)

本事業の実施に当たっては、民間経営による収益性の向上によるJSCの財政負担の軽減を図る観点から、PFI方式(BT+コンセッション)を導入しました。これにより、新秩父宮ラグビー場(仮称)は、民間事業者が施設的设计・建設を行った後、30年間の運営を行うこととなります。なお、BT+コンセッションによる調達には、国の施設としては初めての事例となります。



全天候型(屋根付き)

全天候型とすることは、ラグビーをプレーする人、観る人、支える人、集まる人にとって快適な施設となるほか、他のスポーツ競技や各種イベントなど多様な用途での活用を図る観点からも有意義であると考えています。特に、利便性においては、①天候の影響を受けることなく使用できること、②音漏れを防ぎ、近隣への影響を軽減できること、③災害時の一時滞在施設となりうることなどのメリットがあります。

人工芝

フィールドは、ワールドラグビー推奨の人工芝とし、常に良好な状態で競技できる環境を整えます。また、人工芝を用いることにより、稼働率の向上はもとより、ラグビー以外の多様な用途での利活用も促進されることが期待されます。

スポーツの多様な価値の発信

スタジアム内に文化交流施設としてスポーツミュージアムを設置するなど、スポーツに関する深い学びを支援し、知的な刺激や楽しみを分かち合う機会を提供します。また、心身の健康の保持増進に加え、スポーツ・インテグリティや国際交流による相互理解の推進などスポーツを通して得られる多様な価値を広く国民に発信し、スタジアムに足を運ぶことで「スポーツの力」、スポーツの可能性を感じることができるスタジアムを目指します。

新秩父宮ラグビー場(仮称) 施設概要		
座席数	階数	高さ
約15,000席	地上7階、地下1階	約46m



※イメージ図・記載内容は、実際の設計・施工段階で変更となる可能性があります。

「神宮外苑地区まちづくり」と「秩父宮ラグビー場の移転整備」の経緯



神宮外苑地区は、東京都が計画策定した四大スポーツクラスターの1つに位置づけられ、東京2020大会の招致・開催を契機に国立競技場の建替等が行われてきました。秩父宮ラグビー場を含む区域については、現在、東京都のまちづくり指針に基づき、スポーツ競技の継続性に配慮した連鎖的なスポーツ施設の整備計画が進められています(上図は再開発後の完成予想イメージ)。

この間、令和元年にはラグビーワールドカップ2019日本大会が開催され、国民からの大声援を受けて快進撃を続けた日本代表が初のベスト8進出を果たすなど、人々に大きな夢や感動を与えた大会となりました。

秩父宮ラグビー場は、老朽化とともに、ユニバーサルデザインの導入や多様化するニーズへの対応が求められるなか、スポーツ庁主催の「ラグビーの振興に関する関係者会議」において、ワールドラグビー基準の試合環境が用意できる、全天候型ラグビー専用スタジアムの建設に関する(公財)日本ラグビーフットボール協会の発言・要望などを踏まえ、「ラグビーをプレーする人、観る人、支える人、集まる人にとって快適な施設とすること」、「他のスポーツ競技や各種イベントなど様々な用途でも快適に使用できるように全天候型のラグビー場とし、BT+コンセッション方式のPFI事業により整備すること」などとする「秩父宮ラグビー場移転整備の基本的考え方について」が示されました。JSCでは、この基本的考え方に沿って、新しい秩父宮ラグビー場を整備することとしました。

神宮外苑地区まちづくりと秩父宮ラグビー場移転整備に関する主な経緯

平成23年12月	東京都が「2020年の東京」計画を策定 ・神宮外苑地区を四大スポーツクラスターの1つに位置付ける
平成25年6月	東京都が「東京都市計画神宮外苑地区地区計画」を決定
平成28年7月	東京都がJSCを含む権利者と「神宮外苑地区まちづくり基本計画の検討に関する合意書」を締結 ・再整備構想としてスポーツ施設を移転整備する案が示される
平成30年11月	東京都が「東京2020大会後の神宮外苑地区のまちづくり指針」を策定
令和元年9~11月	ラグビーワールドカップ2019日本大会開催
令和3年1月	ラグビーの振興に関する関係者会議(第3回)において、「秩父宮ラグビー場移転整備の基本的考え方について」が示される
令和3年6月	JSCが「新秩父宮ラグビー場(仮称)基本計画」を策定
令和3年7月	JSCを含む関係権利者が「東京都市計画神宮外苑地区再開発等促進区を定める地区計画企画提案書」を提出
令和3年9月	JSCが「新秩父宮ラグビー場(仮称)整備・運営等事業」の実施方針を公表
令和4年1月	JSCが「新秩父宮ラグビー場(仮称)整備・運営等事業」の民間事業者を公募開始
令和4年3月	東京都が「東京都市計画神宮外苑地区地区計画」の変更を決定
令和4年11月	JSCが「新秩父宮ラグビー場(仮称)整備・運営等事業」契約締結
令和5年2月	東京都が「(仮称)神宮外苑地区第一種市街地再開発事業」を施行認可

神宮外苑地区まちづくりの取組

神宮外苑地区まちづくりでは、以下の課題解決に取り組んでいます。

大規模スポーツ施設の老朽化

老朽化した日本を代表するスポーツ施設を競技開催の継続性に配慮しながら連鎖的に更新し、広くスポーツに親しめる世界に誇れるスポーツクラスターを形成

広場等のオープンスペースの不足

新たな100年に向けて、4列のいちょう並木等歴史ある景観を残しながら、外苑の魅力であるみどりやオープンスペースを増大

地区内の回遊性やイベント開催時の歩行空間の不足

歩行者ネットワークを強化し、イベント時も含め多様な来街者が安全に回遊して楽しめる、東京を代表する新たな複合型のまちづくりを推進



みどりを増やします。



安全・安心なスポーツ環境を形成します。



地域を守る防災拠点をめざします。

神宮外苑地区まちづくりプロジェクトサイト

<https://www.jingugaienmachidukuri.jp/>



国立競技場 | 2025年4月民間事業化開始



新しい国立競技場は2019年11月30日に完成し、これまでの国立競技場の歴史を継承しつつ、新時代のスポーツや文化の在り方を発信していけるスタジアムとして生まれ変わりました。2021年には東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のメインスタジアムとして使用され、現在は陸上競技、サッカー、ラグビーなどのスポーツ競技大会や、文化イベントなどにも利用されるとともに、2025年9月には東京2025世界陸上競技選手権大会の会場として使用される予定です。

特別目的会社による国立競技場の運営事業を開始

国立競技場の運営管理については、民間経営により、JSCの財政支出の抑制を図るとともに、本競技場の利用拡大や質の高いサービス提供なども期待できるという観点から、2025年4月よりコンセッション（公共施設等運営権）方式を導入しました。今後、特別目的会社（株式会社ジャパンナショナルスタジアム・エンターテインメント）は3つの事業ビジョンに基づいて運営していくこととしています。

CHANGE 1

グローバル型のビジネスモデル導入による経営革新（多様なイベントの開催、VIPルームの増設等大規模投資など）

CHANGE 2

国内スポーツ界の発展を牽引する、スポーツの聖地化（国内外の大規模大会の積極的な開催など）

CHANGE 3

ボーダレスなつながりと交流を生み出す、国民に愛されるスタジアム（スマートスタジアムの実現、様々なコンテンツを掛け合わせた総合エンターテインメントイベントの開催など）



世界トップレベルのナショナルスタジアムへ

スポーツ界を牽引する力に

各スポーツ団体と連携し、競技環境と収益還元を強化。スポーツ産業の更なる発展を目指すとともに、国内外の大会誘致でスポーツの中核拠点であり続けます。



顧客満足度を高める運営

飲食の店舗数やバリエーションの大幅見直しなど、観戦体験向上を目的とした各種サービスを拡充する事により利用者及び来場者の顧客満足度を高める取り組みを実施します。



地域連携・にぎわい創出

地域に住み・働き・訪れる人々と緊密に連携し、地域全体の価値向上やにぎわい創出を推進し、スタジアムと地域がともに発展する事業のモデル化を目指します。



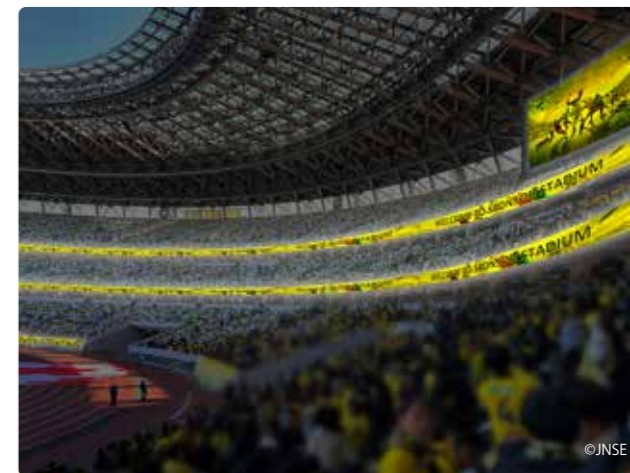
イベントの誘致・運営

スポーツイベントに加えて、「①国内外一流アーティストによるコンサート」、「②その他文化イベント」、「③参加型イベント・レジャー」の3つの柱を実現し、日々人々が集うスタジアムを目指します。



グローバル型ビジネスモデルの導入

VIP空間やICT設備を拡充する投資を行い、スマートスタジアムへ進化を遂げていきます。スポンサー企業とのシナジー創出や、ビジネスイノベーションハブの舞台としても活用することにより、高機能化・多目的化・高収益化のグローバル型のスタジアムビジネスモデルを導入します。



所在地/東京都新宿区霞ヶ丘町10-1
敷地面積/約109,800㎡ 建築面積/約69,600㎡ 延べ面積/約192,000㎡
高さ/約47m 大きさ/南北方向約350m、東西約260m
階数/地上5階、地下2階 構造/鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造ほか
トラック/全天候型400m×9レーン、合成ゴム
芝生/天然芝(地中温度制御システム、散水システム)

国立競技場公式サイト | <https://jns-e.com/>



ハイパフォーマンススポーツセンター (HPSC)

ハイパフォーマンススポーツセンター運営部、ハイパフォーマンス戦略部、国立スポーツ科学センター(事務部、スポーツ科学研究部門、スポーツ医学研究部門)、連携・協働推進部、国際情報戦略部、味の素ナショナルトレーニングセンター

国際競技力向上のための研究・支援等に関する事項

JSCではハイパフォーマンススポーツを、世界一を競い合うスポーツと定義しています。ハイパフォーマンススポーツセンター(HPSC)は、オリンピック競技とパラリンピック競技を一体的に捉え、国立スポーツ科学センター(JISS)と味の素ナショナルトレーニングセンター(NTC)が持つスポーツ医・科学研究、スポーツ医・科学、情報等のサポート及び高度な科学的トレーニング環境を提供し、各種スポーツ資源の開発等を行います。このような取組を通じ、ハイパフォーマンススポーツの強化に貢献しています。



施設の紹介

ハイパフォーマンススポーツセンター(HPSC)では、次の施設の管理運営を行っています。

- スポーツ医・科学、情報等の研究、支援を行う国立スポーツ科学センター(JISS)
- トップレベルの競技者が同一拠点で集中的かつ継続的にトレーニングを行う味の素ナショナルトレーニングセンター(NTC)
- サッカー専用競技場である味の素フィールド西が丘・フットサルコート・テニスコート・戸田艇庫

※NTC及び西が丘サッカー場はネーミングライツを導入し、施設名が「味の素ナショナルトレーニングセンター」「味の素フィールド西が丘」となっています。



国立スポーツ科学センター(JISS)



味の素NTC 屋内トレーニングセンター・ウエスト



味の素NTC 屋内トレーニングセンター・イースト



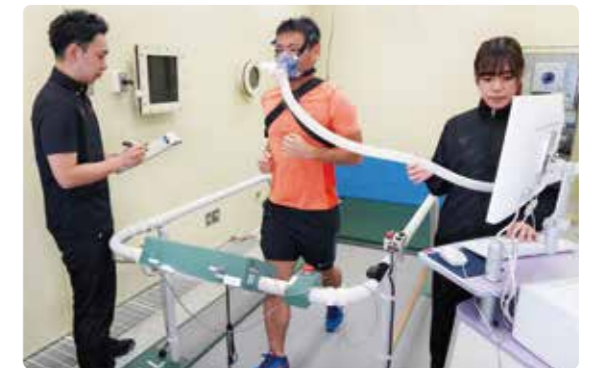
味の素NTC 陸上トレーニング場

実施事業の紹介

国際競技力向上のための研究と支援

スポーツ医・科学支援事業

中央競技団体が行う我が国トップレベルの競技者及びチームの国際競技力向上に向けた活動に対し、スポーツ医・科学、情報等の各分野からサポートを行い、パフォーマンス向上に寄与しています。



スポーツ医・科学支援事業：フィットネスチェック

スポーツ医・科学研究事業

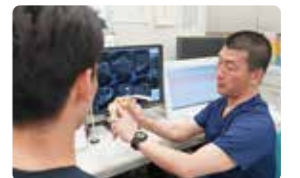
スポーツ医・科学、情報等の各機能が統合したJISSの特長を生かし、国際競技力向上のために有用となる知見や方策を生み出すための調査・研究・開発を行っています。

スポーツ診療事業

トップレベル競技者のスポーツ外傷・障害・疾病に対し、競技スポーツに通じたスポーツドクターやアスレティック・トレーナー等の専門スタッフが、メディカルチェック、診療及びリハビリテーションを通じて、競技者のコンディションを良好な状態に維持・回復させ、オリンピック・パラリンピックをはじめとする各種競技大会において競技力を発揮できるよう支援しています。



スポーツ医・科学研究事業：風洞実験



スポーツ診療事業：診療

女性アスリート研究・支援プロジェクト

女性アスリートが健康に競技を継続しパフォーマンスを発揮するために、専門スタッフが横断的に関わるスポーツ医・科学トータルサポートを行っています。

スポーツ庁受託事業

- ハイパフォーマンス・サポート事業
- 先端技術を活用したHPSC基盤強化事業

地域・大学等との連携・協働

HPSCネットワーク

「HPSCネットワークを通じた医・科学、情報サポートの展開」事業は、HPSCが行ってきたスポーツ医・科学、情報サポートの事例や知見をパッケージ化した「HPSCパッケージ」を全国に展開しています。地域におけるトップアスリートのサポート環境の整備とサポート・スペシャリストの養成を促進することで、質の高いサポートが全国各地でシームレスに実施されるような環境を構築することを目指しています。



大学・企業等との連携

大学・企業等との連携を通じて、HPSCの場を活用した研究の連携、実践機会の提供等を行うことにより、HPSCの機能強化を図るとともに、スポーツ医・科学、情報等による研究・支援を担う人材育成を推進しています。

連携協定締結大学 15大学 (締結日順) (2025年7月現在)

国立大学法人 鹿屋体育大学 / 学校法人 朴沢学園 仙台大学 / 学校法人 早稲田大学 / 国立大学法人 筑波大学 / 学校法人 日本体育大学 / 国立大学法人 大阪大学 / 国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学 / 学校法人 浪商学園 大阪体育大学 / 国立大学法人 東京大学 / 学校法人 朝日大学 / 学校法人 立命館 立命館大学大学院 スポーツ健康科学研究科 / 学校法人 順天堂 順天堂大学 / 国立大学法人 北海道国立大学機構 北見工業大学 / 北海道公立大学法人 札幌医科大学 / 国立大学法人 東京科学大学

JSCと大塚ホールディングス株式会社による共同プロジェクト「Total Conditioning Research Project」で得られた成果等をもとに発行した「アスリートのためのトータルコンディショニングガイドライン」



「アスリートのためのトータルコンディショニングガイドライン」その他コンテンツの詳細は、下記URLまたは右記の二次元バーコードからご覧いただけます。

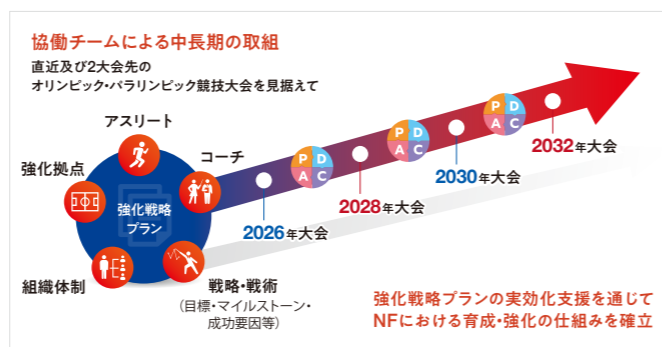
https://www.jpnsport.go.jp/hpsc/study/conditioning/tabid/1850/Default.aspx



競技力向上事業(戦略的強化)

中央競技団体の中長期強化戦略実効化支援事業

中央競技団体が策定する「強化戦略プラン(直近及び2大会先のオリンピック・パラリンピック競技大会を見据えた中長期計画)」の実効化を支援するために、日本オリンピック委員会(JOC)、日本パラスポーツ協会(UPSA)日本パラリンピック委員会(JPC)、JSCは、「協働チーム」として様々な活動に取り組んでいます。強化戦略プランの策定支援や実行上の課題解決につながる情報提供及びワークショップの開催、検証段階における会議の開催などを通じてPDCAサイクルの推進を支援し、各競技団体(NF)の育成・強化システムの確立と国際競技力の向上に貢献します。



アスリート育成パスウェイの構築支援

将来オリンピック・パラリンピック競技大会で活躍するアスリートの発掘・育成の仕組みづくりを支援しています。将来性の豊かな地域のタレント・アスリートからメダル獲得の潜在力を有するメダルポテンシャルアスリートまでの強固で持続可能なアスリート育成パスウェイの構築を目指し、地域タレント発掘・育成事業の関係団体等と連携した、ワールドクラス・パスウェイ・ネットワーク(WPN)を運営している他、全国規模のタレント発掘育成プロジェクト「ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト(J-STAR)」やNFと連携した事業等を展開しています。



国際情報戦略事業

ハイパフォーマンススポーツに関わる国際情報を多角的に収集、分析、蓄積、提供し続け、それらの情報と国際ネットワークを用いて、HPSCの機能強化、持続可能な国際競技力の向上、及びスポーツによる地域・国際社会の発展等に寄与します。

情報調査

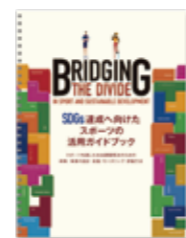
ハイパフォーマンススポーツに関わる国際情報を多角的に収集・調査、分析、蓄積し、国内外の関係団体等に提供します。これらの情報は、国内外のスポーツ及び社会の情勢や動向等を適切に踏まえて、日本のハイパフォーマンススポーツ政策・施策を推進するために活用されています。



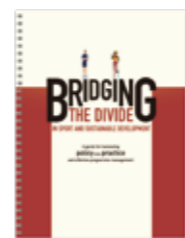
国際ネットワークのマネジメント

国際ネットワークの戦略的な構築、維持、強化、活用を通して、情報収集・調査活動及び効果的な情報発信を推進するとともに、国際渉外を担い具体的な連携事業につなげています。

JSCとスイスの団体(Swiss Academy for Development(SA4D))が共同開発したスポーツを通じたSDGsマネジメント手法に関するガイドブック



日本語版：
<https://www.iir.jpnsport.go.jp/jp/sdgs/>



英語版：
<https://www.iir.jpnsport.go.jp/en/sdgs/>

能力開発

国際ネットワークと情報を活用し、能力開発のための仕組み、プログラム、コンテンツ等を企画・開発・提供します。これにより、国内外においてハイパフォーマンススポーツの次世代を担う人材の育成を支援します。

HPSC Webサイト | <https://www.jpnsport.go.jp/hpsc/>



関係機関との連携・協働

地方公共団体との連携・協働：JAPAN SPORT NETWORKの構築

JSCは、スポーツの推進を担う唯一の独立行政法人として、スポーツ関係者のさらなる連携・協働の中心的な役割を果たすため、平成25(2013)年にJAPAN SPORT NETWORK(以下、「JSN」という)を創設しました。

令和7(2025)年5月末現在、都道府県、政令都市、特別区、大都市から町村まで規模の異なる自治体(914団体)がJSNに参加しています。創設以来、参加団体数が増加し、スポーツ政策に関する最大規模の地域連携ネットワークに拡大しています。

「スポーツの力」共同宣言

スポーツ基本法は、スポーツを「世界共通の人類の文化である」とし、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは「すべての人々の権利」であると謳っています。日本スポーツ振興センターと地方公共団体は、「スポーツの力」共同宣言を行い、スポーツ基本法の理念の実現を目指していきます。

スポーツ行政、地域スポーツの推進を支援

地域とスポーツを活性化するための総合的なスポーツ政策プラットフォームとして、JSN参加団体を対象に情報サービス(メールニュースの配信、セミナー等の開催、調査研究)を提供しています。JSC各部署と連携し、政策立案、新規事業の企画、事業改善に資する情報(JSCが保有する研究知見、コンテンツ)や課題解決に資する有用な機会を提供していきます。



地域スポーツ政策イノベーションフォーラム(2019年・東京)



地方公共団体とJSCによる
 連携・協働のシンボルマーク
 コンセプトは『応援フラッグ』

デザインでは、マークの正円はプラットフォームであるJSNを、その隣のラインは地方自治体ごとの旗に見立て、頭文字「J」を表しています。SPORTの「S」のラインも内在しています。

ロゴカラーの緑は「成長」、青は「信頼」。JSNから発信する情報の信頼性を青で、連携強化・協働が進むにつれて発展していく様子を緑で表し、全体の配色を通じて、スポーツの爽やかなイメージを表現しています。

右肩上がりに伸びる旗の重なりは、参加する地方自治体が増えることでJSNがより発展していく様子を、上に向かって徐々に濃くなるカラーは、連携強化・協働が進むにつれて収集・提供する情報や取組がより濃密に大きくなる様子を表現しています。

ポストスポーツ・フォー・トゥモロー推進事業



大会運営担当者に助言する日本の審判団(日ASEAN友好協力50周年記念レガシー継承事業「第12回ASEAN Para Games(カンボジア)への審判団派遣」)

スポーツ・フォー・トゥモロー(SFT)のもとで構築された官民協力体制や、これまでの取組を東京2020大会のレガシーとして継承し、今後、国内外で開催される様々な国際競技大会を念頭に、スポーツを通じた国際協力による日本のプレゼンス向上に資する取組を発展的に実施するとともに、日本の強みを活かしたスポーツによる国際協力事業を通じて、SDGsへの貢献を実現していきます。

JSCは、スポーツ庁・外務省をはじめとした団体により構成される「SFTコンソーシアム」のネットワークの発展に資する事務局業務を担うとともに、SFTコンソーシアム会員等が実施する事業を推進します。

- 事務局運営、SFTコンソーシアムのネットワーク発展
- 優先協力分野やSDGs課題に主眼を置いた個別事業の展開

スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム 事務局
 Tel: 03-6804-2776 Mail: sft.info@jpsport.go.jp
<https://www.sport4tomorrow.jpnsport.go.jp/jp/>



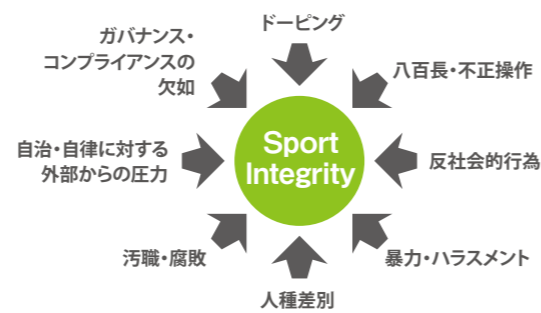
スポーツ・インテグリティの確保に関する業務

「インテグリティ」とは、**高潔さ・品位・完全な状態、を意味する言葉です。**

スポーツにおける「インテグリティ」とは、スポーツが様々な脅威により欠けることなく、価値ある高潔な状態を指します。私たちは、様々な脅威からスポーツの安全・公正・公平などを守る取組を実施することにより、スポーツ及びスポーツ団体の価値や高潔性、アスリートの権利が損なわれることなく、社会の中で存続・発展し続けるための土台づくりに貢献しています。

(右図) Australian Sports Commission 及び Oxford Research A/S (2010) を参考に作成
【参考文献】 Oxford Research A/S, 2010. Examination on Threats to the Integrity of Sports

スポーツ・インテグリティを脅かす要因



スポーツにおけるドーピング防止活動に関する業務



ドーピング調査(インテリジェンス活動)

「スポーツにおけるドーピングの防止活動の推進に関する法律」の目的及び理念を尊重し、ドーピング検査だけでは特定できない、組織化・巧妙化しているといわれるアンチ・ドーピング規則違反を発見・特定するためのドーピング調査を実施しています。また、その情報収集手段の一つとして、ドーピング通報窓口を設置・運用しています。

ドーピング通報窓口サイト | <https://www.report-doping.jpnsport.go.jp>



日本アンチ・ドーピング規律パネルの運営

アンチ・ドーピング規則違反についての事実の有無を認定し、措置を決定する役割を担う、日本アンチ・ドーピング規律パネルを所管しています。

スポーツ指導における暴力行為等に関する第三者相談・調査制度に関する業務



トップアスリートのための相談窓口の運営

アスリートの権利保護のため、スポーツ指導における「トップアスリートのための暴力・ハラスメント相談窓口」を運営しています。また、研修プログラムの開発を行い、スポーツ指導におけるハラスメント等の予防にも貢献します。

相談窓口サイト | <https://www.jpnsport.go.jp/corp/gyoumu/tabid/517/Default.aspx>



スポーツにおけるガバナンス・コンプライアンスに関する業務

中央競技団体のガバナンス・コンプライアンス診断

中央競技団体のより良い団体運営を促進するため、ガバナンスの実効性及びコンプライアンスの現況に関する診断を行っています。その際、専門家によるフィードバックを行うことで、実施団体の運営改善を支援しています。

スポーツ団体の自己説明を促進するプラットフォーム



「スポーツガバナンスウェブサイト」の運用

スポーツ庁が公表した「スポーツ団体ガバナンスコード〈一般スポーツ団体向け〉」に基づき、スポーツ団体が自らの団体運営の状況について、簡便に自己説明・公表が行えるウェブサイトを活用しています。

スポーツガバナンスウェブサイト | <https://www.sg-web.jpnsport.go.jp>

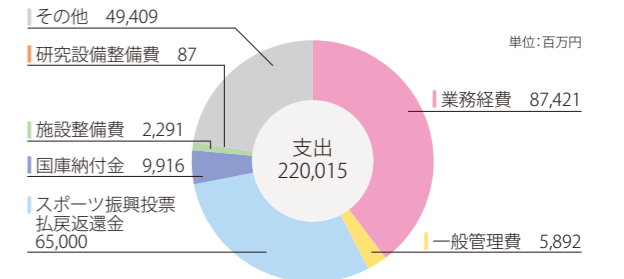
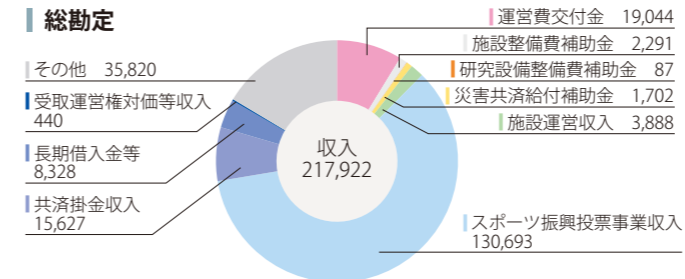


スポーツ団体ガバナンス支援委員会の運営

中央競技団体においてガバナンスの機能不全等による不祥事発生し、第三者による調査等が必要となる事態が生じた際に、弁護士や公認会計士等による、第三者調査に関する支援を行います。

予算 (令和7年度計画予算)

総勘定



※同一セグメント内で勘定間の繰入額があり、損益計算書科目の費用と収益が両建てされている場合には相殺している。

センターの経理は、複数の勘定に区分されており、それぞれの勘定ごとの令和7年度予算は、次のとおりです。

投票勘定

収入	
区分	金額
スポーツ振興投票事業収入	130,693
スポーツ振興投票事業準備金戻入	19,588
利息収入	130
積立金取崩額	140
計	150,551

支出	
区分	金額
業務経費	48,880
うち、人件費	712
スポーツ振興投票業務運営費	28,580
スポーツ振興投票助成事業費	19,588
一般管理費	149
払戻返金	65,000
国庫納付金	9,916
特定業務勘定へ繰入	6,500
スポーツ振興投票事業準備金繰入	19,832
計	150,276

災害共済給付勘定

収入	
区分	金額
災害共済給付補助金	1,702
共済掛金収入	15,400
免責特約勘定より受入	209
利息収入	71
計	17,382

支出	
区分	金額
給付金	14,153
災害共済給付業務経費	2,292
計	16,445

免責特約勘定

収入	
区分	金額
共済掛金収入	227
利息収入	9
計	236

支出	
区分	金額
災害共済給付勘定へ繰入	209
免責特約業務経費	29
計	238

特定業務勘定

収入	
区分	金額
投票勘定より受入	6,500
特定業務特別準備金戻入	5,500
長期借入金等	8,328
うち、長期借入金(勘定間融通)	8,328
利息収入	39
計	20,367

支出	
区分	金額
業務経費	0
うち、新国立競技場整備事業費	0
国立代々木競技場耐震改修等工事費	0
ナショナルトレーニングセンター拡充整備用地取得等費	0
特定業務特別準備金繰入	6,500
事業外支出	13,886
うち、借入金等償還	13,723
支払利息	163
計	20,386

一般勘定

収入	
区分	金額
運営費交付金	19,044
施設整備費補助金	2,291
研究設備整備費補助金	87
基金運用収入	85
受取運営権対価等収入	440
国立競技場等運営収入	2,695
国立スポーツ科学センター運営収入	315
ナショナルトレーニングセンター運営収入	877
国立登山研修所運営収入	1
スポーツ及び健康教育普及事業収入	22
受託事業収入	2,713
寄附金収入	29
営業外収入	130
利息収入	13
その他収入	47
スポーツ施設保守・改修等積立金取崩額	844
計	29,635

支出	
区分	金額
業務経費	22,107
うち、人件費(事業系)	2,980
国立競技場等運営費	3,091
国立スポーツ科学センター運営費	2,028
ナショナルトレーニングセンター運営費	2,137
国立登山研修所運営費	52
スポーツ振興基金事業費	973
競技力向上事業費	10,208
組織基盤強化支援事業費	225
スポーツ活動環境公正化事業費	70
スポーツ及び健康教育普及事業費	343
受託事業費	2,630
一般管理費	5,743
うち、人件費(管理系)	904
物件費	4,839
施設整備費	2,291
研究設備整備費	87
予備費	61
計	32,919

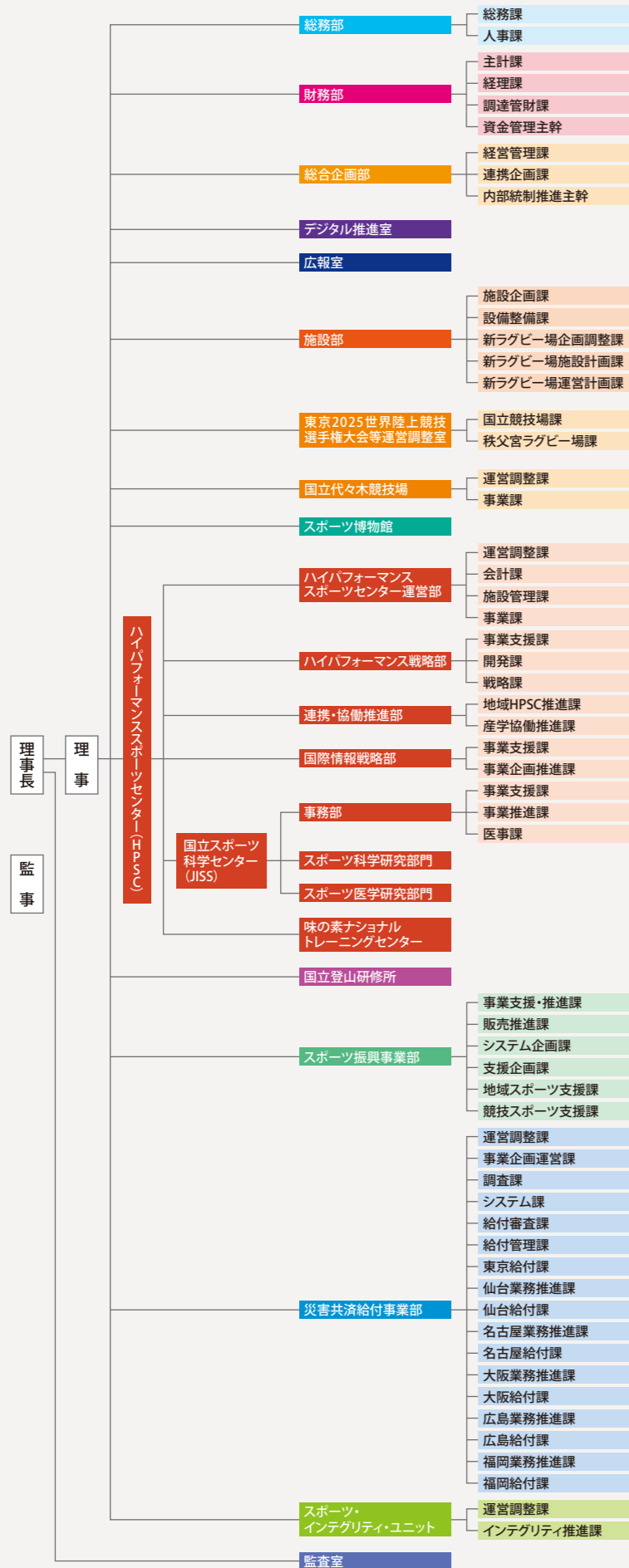
※各種積算と合計欄の数字は四捨五入の関係で一致しないことがある。
※一般勘定の「施設整備費補助金」、「研究設備整備費補助金」及び「寄附金収入」には前年度より繰越額のうち今年度使用見込額を含む。

単位:百万円

資金金の状況

区分	令和6年度期首残高	令和6年度増加額	令和6年度減少額	令和7年度期首残高
政府出資金	257,355	-	-	257,355

※2025年7月1日現在



連絡先一覧

外務事務所

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-1
日本青年館・日本スポーツ振興センタービル
総務部総務課 / Tel:03-5410-9124 (代表)
財務部主計課 / Tel:03-5410-9139
総合企画部経営管理課 / Tel:03-5410-9123
広報室 / Tel:03-5410-9121
施設部 / Tel:03-5410-9152

国立競技場

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町10-1
Tel:03-5843-1300

国立代々木競技場

〒150-0041 東京都渋谷区神南2-1-1
Tel:03-3468-1171

秩父宮ラグビー場

〒107-0061 東京都港区北青山2-8-35
Tel:03-3401-3881

秩父宮記念スポーツ博物館・図書館

〒273-0017 千葉県船橋市西浦2丁目5-3 (株) ロジ・レックス 船橋第一倉庫5階
Tel:047-401-1724

ハイパフォーマンススポーツセンター

国立スポーツ科学センター
味の素ナショナルトレーニングセンター
〒115-0056 東京都北区西が丘3-15-1他
Tel:03-5963-0200

味の素フィールド西が丘

〒115-0056 東京都北区西が丘3-15-1
Tel:03-5963-0203

戸田艇庫

〒335-0024 埼玉県戸田市戸田公園4-9
Tel:048-441-2580

国立登山研修所

〒930-1405 富山県中新川郡立山町芦峯寺ブナ坂6
Tel:076-482-1211

仙台支所

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉1-5-15日本生命仙台勾当台南ビル8階
災害共済給付事業部仙台業務推進課 / Tel:022-716-2106

名古屋支所

〒450-0001 愛知県名古屋市中村区那古野1-47-1名古屋国際センタービル16階
災害共済給付事業部名古屋業務推進課 / Tel:052-533-7821

大阪支所

〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-11-4大阪駅前第4ビル7階
災害共済給付事業部大阪業務推進課 / Tel:06-6456-3601

広島支所

〒730-0011 広島県広島市中区基町9-32広島市水道局基町庁舎10階
災害共済給付事業部広島業務推進課 / Tel:082-511-2822

福岡支所

〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神4-8-15福岡ガーデンパレス4階
災害共済給付事業部福岡業務推進課 / Tel:092-738-8720

SNS (各二次元バーコードからWebサイトへアクセスいただけます)



日本スポーツ振興センター Facebook
<https://www.facebook.com/JapanSportCouncil/>



日本スポーツ振興センター X
https://x.com/japansport_JSC



独立行政法人日本スポーツ振興センター公式チャンネル
<https://www.youtube.com/@JAPANSPORTCOUNCIL>



ハイパフォーマンススポーツセンター X
<https://x.com/jissofficial>



スポーツ・フォー・トゥモロー Facebook
<https://www.facebook.com/sport4tomorrow/>



スポーツくじ Facebook
<https://www.facebook.com/sportsjapantotobig/>



国立登山研修所 X
<https://x.com/bunazaka6>



国立登山研修所 Instagram
<https://www.instagram.com/bunazaka6/>



寄附について

独立行政法人日本スポーツ振興センターでは、皆様からの寄附を募集しています。我が国のスポーツや学校安全の更なる発展のために、皆様の温かいご支援をお願いいたします。



<https://www.jpnsport.go.jp/corp/gaiyou/tabid/319/Default.aspx>